大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F123310106657	設置等組織名	工学部工学科
大学名	日本福祉大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	愛知	事業計画名	日本福祉大学工学部（仮称）開設事業

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	1-①令和５年６月　文部科学省事前相談　書類提出 1-②令和５年８月　文部科学省事前相談　結果通知 1-③令和５年８月　学生確保の見通しに関する調査委託業者の選定 1-④令和５年９～10月　学生確保の見通しに関する調査内容の検討・準備 1-⑤令和５年11～12月　学生確保の見通しに関する調査実施 1-⑥令和６年４月　設置届出書類提出 1-⑦令和６年４月以降　ＰＲ活動・学生募集活動開始	1-①令和５年６月　文部科学省事前相談　書類提出 1-②令和５年８月　文部科学省事前相談　結果通知 1-③令和５年８月　学生確保の見通しに関する調査委託業者の選定 1-④令和５年９～10月　学生確保の見通しに関する調査内容の検討・準備 1-⑤令和５年11～12月　学生確保の見通しに関する調査実施 1-⑥令和６年４月　設置届出書類提出 1-⑦令和６年４月以降　ＰＲ活動・学生募集活動開始	令和5年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和6年度	2-①令和７年１～３月　新学部設置に伴う施設改修	2-①令和６年４～令和７年３月　新学部設置に伴う施設改修	令和6年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	3-①令和７年４月～　広報用WEBサイト・動画等制作（R8.3.13承認） ~~3-①令和７年４月～　新学部特設WEBサイトの開設~~ 3-②令和７年４月～　パンフレット発行による広報活動の強化 3-③令和７年４月～　対面形式広報活動（オープンキャンパス等）の強化 3-④令和７年４月～　産学官連携をテーマにしたイベント（シンポジウム、勉強会等）の開催 3-⑤令和７年４月～　正課授業におけるAI利活用の取組推進の強化 （ChatSense、KebbiAir、Google NoteBookLM、Microsoft365、Google Workspace、Chat GPT等の利用）（R8.3.13承認） ~~3-⑥令和７年４月～　正課授業におけるAI利活用の取組推進の強化~~ ~~（Microsoft365、Google Workspace、Chat GPT等の利用）~~ 3-⑥令和７年４月～　NIAD主催の会議・イベント・説明会等への参加（R8.3.13承認）	3-①令和７年４月～　広報用WEBサイト・動画等制作（R8.3.13承認） 3-②令和７年４月～　パンフレット発行による広報活動の強化 3-③令和７年４月～　対面形式広報活動（オープンキャンパス等）の強化 3-④令和７年４月～　産学官連携をテーマにしたイベント（シンポジウム、勉強会等）の開催 3-⑤令和７年４月～　正課授業におけるAI利活用の取組推進の強化 （ChatSense、KebbiAir、Google NoteBookLM、Microsoft365、Google Workspace、Chat GPT等の利用）（R8.3.13承認） 3-⑥令和７年４月～　NIAD主催の会議・イベント・説明会等への参加（R8.3.13承認）	令和7年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	3-①令和８年４月～　広報用WEBサイト・動画等制作 3-②令和８年４月～　パンフレット発行による広報活動の強化 3-③令和８年４月～　対面形式広報活動（オープンキャンパス等）の強化 3-④令和８年４月～　産学官連携をテーマにしたイベント（シンポジウム、勉強会等）の開催 3-⑤令和８年４月～　正課授業におけるAI利活用の取組推進の強化 （ChatSense、KebbiAir、Google NoteBookLM、Microsoft365、Google Workspace、Chat GPT等の利用） 3-⑥令和８年４月～　NIAD主催の会議・イベント・説明会等への参加		令和8年度自己評価　リストから選択してください。
令和9年度			令和9年度自己評価　リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価　リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価　リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価　リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価　リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価　リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和６年４月　工学部工学科　学部の設置届出予定	令和６年４月　工学部工学科　学部の設置届出	
定員減又は 学部等の廃止	令和６年４月　健康科学部福祉工学科学生募集停止の報告（入学定員100人、工学関係・、社会学・社会福祉学関係）	令和６年３月　健康科学部福祉工学科学生募集停止の報告（入学定員100人、工学関係・、社会学・社会福祉学関係） 令和７年４月　健康科学部福祉工学科学生募集を停止（入学定員100人、工学関係・、社会学・社会福祉学関係）	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	日本福祉大学

２．申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３．申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４．審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【Ａ：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
2024年度からを目途に、愛知県による「デジタル人材の育成・確保を目的とした企業への長期インターンシップ、企業と連携したPBLに参画し、学生に対して多様な学習機会・実践機会の提供を図ることにより、学生の課題解決力、企画立案力等の習得を支援する。 半田市内の専門学科を設置する高等学校と連携し、探求学習に対応するオンライン講義や出張講義実施する。	企業や自治体と連携した実践的な教育（PBL等）の整備および実施について、2025年度は以下4点の取り組みを行った。 ①2025年10月、JFEスチール株式会社と学生の研究・教育支援を目的とした協定を締結した。同月、工学部1年次科目「環境建築入門」および「建築デザイン入門」において、同社知多製造所の生物多様性保全活動拠点「ビオトープ知多」を訪問し、愛知県知多半島の生態系保全に関する取り組みについて学習した。 ②2025年12月、株式会社豊田自動織機、東浦町里山保全隊、および東浦町役場生活経済部環境課に対し、学生が生態系ネットワークの保全を目的とした提案を行った。具体的には、知多半島の象徴種である「キツネ」が森と同社工場を行き来できるよう配慮した「ビオトープ」の整備案の提案である。 ③2025年10月～2026年3月、名鉄エリアパートナーズ株式会社と学生が協働し、明治村開村60周年に合わせ、「博物館明治村」の再整備計画を提案した。明治村の建物や四季の草花、樹木などの魅力を学生の目線で捉え直し、「明治村 四季のお散歩マップ」を作成して、同施設への納品が完了した。 ④2026年6月、知多郡阿久比町に新たに開設される整形外科「あべ眼部整形外科いたみのクリニック」の内装・外構のプラン作りに関して、TSCアーキテクトの建築士と一緒に学生が設計工程に参画し、提案した。 その他、2026年8月～10月（株）AVANTIAと社会福祉学部学生と工学部学生で企業課題の解決に取り組むPBL講座の開港に向けて準備が完了している。 海外協定校である「深圳信息職業技術大学」との連携科目について、2026年8月から9月にかけて本学半田キャンパスで開講すべく調整を進めている。本科目はAmazon AWSに焦点を当て、AWSクラウドプラットフォームのコンピューティング、ストレージ、およびネットワークサービスを学習するものである。本学の既存カリキュラムにはない専門的な領域であり、学生にとって新たな学びの機会となる。 高大連携の取り組みとしては、半田工科高校に対してDXハイスクール事業に関連する「情報Ⅰ」の一部を補完する講義を実施した。また、半田東高校に対しては「探究学習」に対応した出張講義を実施し、地域の高等学校における教育活動を支援している。 申請時の計画にある愛知県による「デジタル人材の育成・確保を目的とした企業への長期インターンシップ」及び「企業と連携したPBL」については、2027年度工学部3年次が立ち上がることに合わせ、2026年度中に参画に向けた調整を進める。	

【Ｂ：多様な入学者の確保に向けた取組】

□ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
□ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学ではすでに高等学校10校と教育連携・交流協定の締結や高大接続教育のプログラムを実施しており、相互の教育と学生・生徒の自主活動の質を高めるための取組みを推進するとともに、付属高等学校においては、毎年度、学部長による学部ガイダンスや正課授業に大学教員が出張講義を行うなど連携の取組みを推進している。また、社会人を対象とするリカレント教育事業部を設置し、「生涯、学ぶこと、自分を成長させ、社会で活躍し続ける人間であり続ける人に多様に応える。」ことをテーマに、大学院、大学通信課程、専門学校、総合研修センターの４つの学びの形を提供している。 留学生の受入れ強化に関しては、事務局に国際課を配置し、留学生のエンロールメント・マネジメントの強化を進めている。また、留学生の日本語・日本文化教育と地域社会の国際化を支援することを目的とした組織である日本語教育センターを2017年8月に設置し、本学で学ぶ留学生への支援強化を推進している。	地域の初等中等教育段階の学校との連携に関しては、亀崎小学校5年生の「防災を知ろう」という授業において、半田キャンパスの防災設備や地域の避難所指定等についての講義を行った。また、有脇小学校3年生の「町探検」では、半田キャンパスに設置されている学部やその学びについて紹介を行った。 さらに、有脇地区における魚類の生態調査、外来魚の駆除、ため池の整備および長寿命化等を目的とした「有脇かいひ大作戦」を例年実施しており、有脇小学校の全児童、本学の学生、そして地域住民と協働で取り組んでいる。 高等学校に向けた模擬授業や分野別のガイダンスについては、DXハイスクール採択校を含む26校を対象に計40回実施した。2026年度に向けては、DXハイスクール採択校である大府東高校との間で、情報工学および建築学の各3回連続講義の実施にむけた調整が完了している。 社会人学生の受け入れ強化に向けた取り組みとして、工学部の入学試験制度に「社会人入学試験」を設けている。加えて、科目等履修生制度を活用することで、社会人が工学部で開講している総合基礎科目3科目および専門科目16科目の中から、任意の科目を選択して受講できる体制を整えている。 留学生の受け入れ強化に関する取り組みとして、2025年4月に「国際リベラルアーツセンター」を新設し、海外協定校である深圳信息職業技術大学との単位互換科目の開講に向けた取り組みを進めている。また、日本語学校に対する工学部新設に係るガイダンスの強化や、アクセスのよい名古屋キャンパスでのオープンキャンパスを積極的に実施した。その結果、2026年度の留学生入学者数は18名となり、2025年度の6名を大きく上回る成果を上げた。 在籍する留学生に対しても修学支援体制を強化している。具体的には、国際リベラルアーツセンター所属の教員が留学生全員と面談を行い、キャリア教育の機会を提供している。それに加え、工学部の留学生が充実した環境で日本語を学習できるよう、2026年度より全学教育センターの科目「言語と文化」の半田キャンパスクラスを新たに開講する等の環境整備を行っている。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	日本福祉大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和6年度	実施状況報告書留意事項	R7 年度収容定員充足率が 0.78（工学部工学科）となっている。収容定員未充足の改善に努めること。	１．多様な学生（外国人留学生等）の受入促進に関する取組み 「知の総和」答申における多様な学生（外国人留学生等）の受入促進を図るため、本学の国際交流の推進および外国人留学生の学生募集や学生支援等を担う「国際リベラルアーツセンター」を2025年4月に設置するとともに、新たに深圳信息職業技術大学（中国）等の海外高等教育機関との学術協力・交流に関する協定締結を行うなどの取組みを進めている。加えて、外国人留学生等指定校推薦入学試験のおける推薦依頼学校数の拡充および外国人留学生対象の大学説明会の取組強化を推進している。 〇外国人留学生等指定校推薦入学試験のおける推薦依頼学校数　＋８校（2024年度　11校　⇒2025年度　19校） 〇外国人留学生対象の大学説明会の参加者数　+延199名（2024年度　延952名（53会場)⇒2025年度　延1,151名（50会場）※） 〇外国人留学生等指定校推薦入学試験志願者数　＋３名　（2025年度入試　0名　→　2026年度入試　３名※） 〇外国人留学生等入学試験【前期日程】志願者数　＋９名　（2025年度入試　3人　→　2026年度入試　12名※） ※2025年度及び2026年度入試の数値は2025年10月17日時点の内容 ２．日本福祉大学工学部の認知度向上に関する広報活動の取組み 大学全体で実施するオープンキャンパスや事務職員による定期的な高校訪問に加え、工学部教員による出前講義や訪問ガイダンス、学部独自の広報活動を積極的に展開している。 〇オープンキャンパス（工学部企画）参加者数　+延39名（2024年度　延252名　⇒　2025年度　延291名） 〇工学部教員による出前講義や訪問ガイダンスの対応件数　＋９件（2024年度　15件　⇒　2025年度　24件※） 〇在学生による母校訪問　４件（新規事業） 〇工学部主催シンポジウムおよび情報交換会の実施 「亀崎の伝統と革新」を10/11に実施。工学部の教育連携について産官学における各ステークフォルダー（高校生・高等学校教員・企業・行政職員・観光協会等）と日本福祉大学工学部教員、学部生が参加し、情報交換会を実施。地域振興・文化振興に関する意見交換を行った。（URL：https://www.n-fukushi.ac.jp/news/event/calendar/2025/07/17/006181/） 〇中学・高等学校教員向けの研修会の実施 知多半島地域の中学・高校の教員（数学科・情報科）を対象とするAIを活用した数学教育に関する研修会を11/18に実施。中学・高等学校教員を対象とした、日本福祉大学工学部の認知度向上に関する取組みを行った。 〇近隣の高等学校文化祭に出展。 愛知県立横須賀高校の文化祭（9/5、6開催）に工学部の学生が出展。理系クラス50名ほどの高校生を対象に工学部について紹介するとともにe-Sportsの動作解析など、卒業研究の取り組みについて紹介し、工学部の認知度向上を図った。

大学名	日本福祉大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	工学部工学科（工学関係）

大区分	小区分	年度 / 改組状況 / 項目	単位	R5年度 選定	R6年度 届出	R7年度 開設	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
	事業計画に定める定員	入学定員	人			100	100															
		編入学定員	人																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	100	100															
		入学者数	人	-	-	78	61															
		女子学生数	人	-	-	15	15															
		社会人学生数	人	-	-	0	0															
		留学生数	人	-	-	6	18															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	100	100															
		入学者数(B)	人	-	-	78	61															
		女子学生数	人	-	-	15	15															
		社会人学生数	人	-	-	0	0															
		留学生数	人	-	-	6	18															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	0.78	0.61															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	100	200															
		編入学定員	人	-	-	0	0															
		在籍者数(D)	人	-	-	78	133															
		編入学者数	人	-	-	0	0															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	0.78	0.67															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	6	6															
		授業科目の単位数	単位	-	-	33	33															

大学名	日本福祉大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	100	100	100	100															
		入学者数	人	44	54	78	61															
		女子学生数	人	9	8	15	15															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	6	18															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	100	100	100	100															
		入学者数(B)	人	44	54	78	61															
		女子学生数	人	9	8	15	15															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	6	18															
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.44	0.54	0.78	0.61															
	収容定員等	収容定員(C)	人	370	400	400	400															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	294	250	249	233															
		編入学者数	人	2	0	1	1															
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.79	0.63	0.62	0.58															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	82	73	64																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	7	12	11	12															
		授業科目の単位数	単位	41	33	66	66															

大学名	日本福祉大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	2295	2295	2295	2295															
		入学者数	人	1692	1444	1976	2055															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	2,295	2,295	2,295	2,295															
		入学者数(B)	人	1,692	1,444	1,976	2,055															
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.74	0.63	0.86	0.90															
	収容定員等	収容定員(C)	人	10030	10060	10060	10060															
		編入学定員	人	880	880	880	880															
		在籍者数(D)	人	10114	9690	10229	11268															
		編入学者数	人	1280	957	1505	1935															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.01	0.96	1.02	1.12															

４.外部資金の状況（全学）

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況	申請－５年	申請－４年	申請－３年	申請－２年	申請－１年	選定		開設											
項目 / 単位																			
外部資金獲得額 / 千円	320,336	315,387	238,985	289,801	292,244	315,836	532,833	461,638											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金	千円	299,144
本事業による助成金の額(F)	千円	276,337
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	306,052

特記事項

・１.本事業対象となる学部等の状況における、工学部工学科の令和7年度の編入学定員0とは、若干名を意味している
・２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況における、健康科学部福祉工学科の令和5、6、7年度の編入学定員0とは、若干名を意味している